

『食の都庄内』旬だより 【庄内砂丘の里芋】



里芋の生育状況



掘り上げた里芋



箱入り商品

1 庄内砂丘で栽培している里芋

- 県内の里芋栽培は、ほとんどが水田での転作作物として導入されています。
- 庄内砂丘での里芋の作付が拡大したのは平成28年頃からで、酒田市袖浦地区を中心に栽培されています。
- 庄内砂丘では、ハウスを主とした経営が進む中、露地作物が減少し、新たな有望品目として、庄内総合支庁産地研究室（酒田市浜中）で里芋栽培試験の成果を情報提供したことが、栽培のきっかけです。

2 庄内砂丘での栽培の特徴

- 庄内砂丘では昔からメロン栽培が盛んで、各圃場には灌水設備が備わり、多くの水分を要する里芋栽培には適しています。芋への砂の付着も少なく、掘り取りが容易で、作業効率が高まります。
- 4月下旬から種芋を植え、収穫直前まで灌水し、降雪前までに掘り取りをします。収穫後には芋を乾燥させ、出荷は11月から3月までで、需要の高まる年末頃が最盛期となります。
- 掘り取った芋は、砂を払うだけで綺麗な虎模様で「皮が白く外観が美しい」「土臭さが無く、甘味があり、ねっとりとした食感で食味が良い」と評価を受けています。JAそでうらでは「庄内元禄」の名で商標を取得し、ブランド化を進めています。

3 おすすめの食べ方

- 里芋と聞くと芋煮が連想されますが、レシピは幅広く、さまざま料理にして楽しむことができます。
- 煮っころがし、揚げ物、汁物に加えたりするのは定番の食べ方です。
- コロッケのタネやサラダに加え、ねっとりした食感を生かし、美味しく食べることができます。



庄内風芋煮

4 出荷先・購入できるところ

- JAそでうらでは、12月から3月に、地元の一部農産物直売所やスーパーをはじめ東京、大阪、仙台の市場に出荷、販売しています。